

<週報No. 2, 835> 2, 944 回例会

2018年3月2日(金)

◆会長／八幡 一成 ■幹事／北川 和彦

◆司会＝平林明 S A A

◆ゲストビジター＝「すわまちくらぶ」副会長五味光一様

◆出席報告

本 日	75.0%	13名欠席
前回訂正	91.3%	4名欠席

◆ラッキーナンバー＝No.29 伴在賢時郎君

◆ニコニコボックス＝●岩波寿亮君＝五味さん、本日は宜しくお願いします。「すわまちくらぶ」になかなか出席できず、すみません。●八幡一成君・北川和彦君＝今日は「すわまちくらぶ」の五味副会長、宜しくお願いします。皆様、席替えのご感想は如何でしょうか。●小口秀孝君＝五味光一さん、卓話、宜しくお願いします。●北川和彦君＝誕生祝いをしていただき、有難うございました。66歳になりました。●伴在賢時郎君＝結婚記念日のお祝いを頂いて。●早出由男君＝3月になり、私は80歳の誕生日を迎えることになりました。ここまで元気で過ごしてこられたことに感謝します。●伴在賢時郎君＝ラッキーナンバーに当たって。

◆会長告知・八幡一成会長＝今年度はこれまでにローターアクトについて様々な機会を捉えて紹介して来ました。今日はイアン・ライズリーRI 会長からのローターアクトについてのメッセージを紹介します。

ローターアクトが1968年に創設されてから、今月で50周年を迎えます。今回はローターアクト特集として、世界中で変化をもたらすローターアクトの活躍に注目してみましょう。ローターアクト誕生から半世紀、世界は大きく変化しましたが、テクノロジーと情報社会の台頭、教育の普及、インターネットの計り知れない衝撃にもっとも影響を受けているのは若い世代です。ローターアクトの創設時には、10代20代の起業家やCEOといった存在は想像もつかないものでした。今日、若い世代にはかつてない実行力が備わっています。ロータリーはこれまでになく、若い世代のアイデアや熱意を必要としているのです。ロータリーは何年もの間、青少年と若い社会人のプログラムを、価値が高く実りの多いプログラム

としてではなく、単にロータリー入会へと繋がる前段階として捉え、ローターアクトの価値を見誤っていました。ローターアクトは、ロータリーの奉仕活動における真のパートナーです。今日、ロータリークラブが存在する世界の国々で、1万を超えるローターアクトクラブがあり、推定25万人のローターアクトが活動しています。彼ら彼女らの持ち得るリソースに鑑みれば、ローターアクトが生み出す奉仕の影響力は目を見張るものがあります。平均的なロータリークラブと比べて自由に使える資金は遥かに少なくとも、驚くべき活動成果をあげています。エネルギーとビジョンをもって、ロータリーファミリーと地域社会に貢献しており、高い評価に値するものです。

しかし、ローターアクトを提唱しているロータリークラブは27%で、この割合は長年余り変動していません。また、ロータリークラブに入会するローターアクトの数は余りにも少ないものです。ローターアクト50周年を迎えた今、私は、ローターアクトクラブの提唱と既存クラブとの関係強化を、すべてのロータリークラブに呼びかけます。定期的な合同会合を計画し、共同プロジェクトを企画しましょう。手助けできることはないか尋ねるだけでなく、どうすれば力を合わせて活動できるか検討するために、ローターアクトに語りかけましょう。ローターアクトとその会員のことを知りましょう。そして、入会を待ち望んでいるロータリークラブがあるということ、全てのローターアクトに確実に伝えましょう。ローターアクトはこの半世紀、ロータリアンがロータリーに見出すものと同じ、つまり地域社会との絆と奉仕の意味を見つける術を青少年に教えてきました。ローターアクトは、今日のロータリーを築く一端を担いつつ、将来のロータリーへの架け橋となります。

メッセージは以上です。尚、明日のIMには諏訪ローターアクトクラブの会員2人も参加します。

◆幹事報告・北川和彦幹事＝①五味光一さん、本日は楽しい話を聞かせて下さい。宜しくお願いします。②明日3月3日はIMです。午前10時開会、9時30分受付開始です。岡谷のライフプラザマリオで開催します。③3月30日午後6時半から、ぬのはんで諏訪湖RCとの合同例会を開催します。多数ご参加下さい。④例会終了後、理事会を開催しますので、理事とオブザーバーの方は終了後お集り下さい。

◆クラブフォーラム卓話・「すわまちくらぶ」副会長五

味光一様＝仕事の方は、設計事務所を運営しています。若い頃は、街づくりには興味はなく、建築専門でした。約30年前に独立して、建築士会に加入した際に街づくり委員会に所属し、徐々に街づくりに興味を持ちました。それから10年ぐらいて、街づくり委員会の委員長を務め、建築士会諏訪支部50周年の節目を迎えた際に、これを記念して、諏訪に50年以上残っている建築物を本にしようということで、諏訪清稜高校出身の藤森照信先生（元東大教授）に監修してもらい、2002年に「諏訪の建築」という本を作成しました。この書籍では、まず「看板建築」（藤森先生が命名）について紹介しています。本町の通りにはアーケードがあって、通行していてもアーケードの下にある店舗しか気付きませんが、この写真集を作るために写真を撮って、アーケードの上に面白い建築があることに気付きました。



次に、「ごんさの絵巻」です。これは、伊藤権六さんが、大正末期における上諏訪の本町から赤羽根までの街並みを絵にしたものです。記憶頼りのために正確でない点もあり、例えば、昭和に建造された旧富士銀行の建物が描かれています。続いて、大正末期における上諏訪の航空写真ですが、並木通りの両側には川があり、また上諏訪駅の西側には機関区があり、機関車を回転させたターンテーブルも写っています。昭和に入って、本町の通りが拡張され、歩道ができました。その頃に看板建築が造られました。通り沿いにはポプラが植えられました。七夕祭りが行われたこともありました。また、「本町銀座街」というネオンサインが国道の上に設置されたこともありました。無許可で設置されたもので、あっという間に撤去させられたようです。その後、アーケードが出来上がり、アーケードから上にある建物は人々から忘れ去られました。私共は、街並みの写真を整備していく中で、格好良い光景であると気づき、建物の一つ一つにニ

ックネームをつけて、調査を進めました。諏訪市から依頼を受けて、緑地を作ったり、建物の色をアースカラー（自然な色）に塗り直すといったプロジェクトも進めました。電線の地中化やアーケードの撤去も行いました。

こうした取組を契機に本町とも縁ができて、過去に白牡丹が入っていた建物で「すわまちくらぶ」の運営を開始しました。「上諏訪看板建築ミュージアム」と題して、看板建築の街並みをアピールしたり、各建物にホーロー看板を取り付けたり、建物の壁に屋号を表示するといった取組も進めました。更には、歩道沿いにベンチを10カ所ぐらい作ったり、プランターを設置して、花を植えたりしました。「すわまちくらぶ」には後山の分校から、古い木の机と椅子を譲り受けて、設置しています。床には、諏訪の絵地図を床に飾っています。ぼんぼりや手毬を作って展示したり、諏訪湖の成り立ちや神渡りについての話を聞く会なども行っています。

さて、諏訪の建築は、他の場所と違うことをご存知でしょうか。子供の頃から、峠を越えると、諏訪と他の街は風景が異なると感じていましたが、諏訪には、瓦の屋根の家がなく、赤や青のトタン屋根の家が多くあります。諏訪に良い土がなくて、瓦を焼くことができなかったことや、冬が厳しくて、品質の悪い瓦だと一冬でボロボロになってしまうためです。白樺の皮を葺いて、風で飛ばないように石を置いた屋根の家も沢山あります。また、諏訪には軒が大きく出た家が多くあり、良い家だとされます。漆喰塗りの壁は雨に当たると流れてしましますが、軒が出ていると長持ちするのです。また、諏訪では、寒冷地で敷地が狭いため、蔵が併存している家が多くあります。このように諏訪の歴史や風土を織り込んだ建築を行うことで、諏訪の街並みが整備されていくのではないかと考えています。我々は、建築というハードを通じた街並みづくりに取り組んでいますが、一方で、子供たちを取り巻く環境づくりなど、ソフト面での街づくりに取り組んでいる方々もおられます。「すわまちくらぶ」では、こうした人たちに発表や展示などを行って頂いています。是非、お立ち寄り頂ければと思います。

◆今後の例会日程

3月9日	金	休日
3月16日	金	クラブフォーラム
3月23日	金	準法定休日
3月30日	金	諏訪RC合同例会・ガバナー補佐訪問